

徳島県鳴門市に現存する増田友也の建築作品

増田友也 建築作品 公共建築
学校 図面 現存

正会員 ○長岡大樹*

1. 序 増田友也(1914-1981)は1939年に京都大学建築科を卒業、その後1950年から1978年までの28年間、京都大学工学部の建築計画講座、建築意匠講座にて教育研究及び設計活動を行った。徳島県鳴門市は人口約64000人(2007年2月末)、増田が生まれた兵庫県淡路島と鳴門海峡を挟んで対面して位置する。1931年に京都大学法学部を卒業した谷光次(1907-2002)が鳴門市長を務めた1959年から1987年までの間、市内に建てられた公共建築のいくつかは増田の設計と言われている。現在、こうした建物の多くは、増田の遺作であり市のシボルの存在である「鳴門市文化会館(1982年竣工)」の作風との類似性(例えば、打放しコンクリートの素材感、外壁の縦ルバー)から増田の設計と考えられているなど、建物と設計者の対応が不明瞭で、建築作品として十分に位置付けられていない。

2. 研究の意義と分析方法 鳴門市に現存する増田友也の一連の建築は、幅広いビルディングタイプ、多種多様な構造規模、作品数、という3つの見地から、増田の建築家としての実績を明確にするうえで無視できない事例と考えられる。また限定されたエリア内で同一の建築家が手がけた近代建築群の事例としても興味深い。本研究では、鳴門市が所蔵する公共建築の設計図面の設計者欄に記載された内容を検討することで、増田が設計した建物を特定し、設計者としての関与を明らかにする。さらに各作品の竣工年を特定し、現地調査による現存状況も報告する。

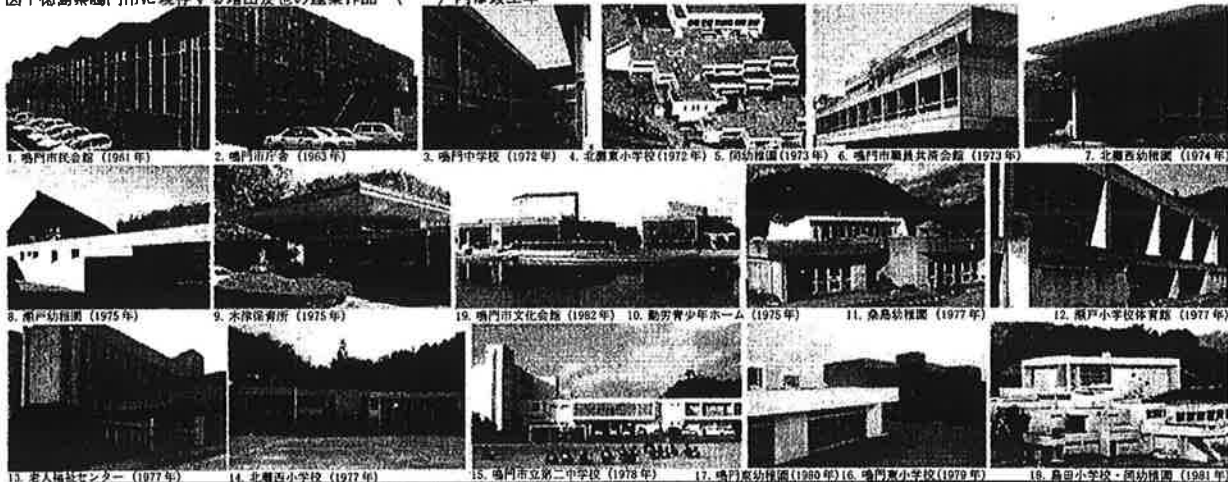
3. 設計図面の所蔵状況 鳴門市内の公共建築の設計図面は、「A:鳴門市教育委員会教育総務課」、「B:鳴門市役所建設部都市住宅課」、「C:各公共建築」の3箇所いずれかに所蔵されていた。学校や幼稚園といった学校教育施設の図面は「A」に、その他庁舎や文化施設の図面は「B」に所

蔵されていた。また市から民間に移譲された木津保育所の図面のみ例外として保育所内「C」に所蔵されていた。こうした図面は、建物の維持管理や修繕等で現在も参考にされるなど、実務的に利用されながら保管されている。

4. 図面からみた増田友也の設計者としての関与

増田が設計した建物を特定し、設計者としての関与を明らかにするため、「A」、「B」、「C」各箇所に所蔵された図面のうち増田の作品の可能性が少しでもある図面すべてに目を通した。結果、増田の設計への関与が認められる図面は26冊(物件数としては19件)みられた(図1・表1)。例えば図面No. 1-1「市民会館新築工事」では設計者欄に「設計指導 京都大学助教授工学博士一級建築士第*号 増田友也」「財団法人 建築研究協会一級建築士事務所～略～京都大学工学部建築学教室内～略～」と記載があった。また図面No. 9-1「木津保育所改築工事」では「京都大学 増田研究室 生活環境研究所」「TOMOYA MASUDA & ASSOCIATES DEPARTMENT OF ARCHITECTURE KYOTO UNIVERSITY」「増田(印鑑)」とあった。同様の分析を26冊の各図面に行ったところ、設計者欄の注目すべき記載内容としては、「京都大学 増田研究室 生活環境研究所」「TOMOYA MASUDA & ASSOCIATES DEPARTMENT OF ARCHITECTURE KYOTO UNIVERSITY」「設計指導 京都大学教授工学博士 増田友也」の3つが挙げられる。ほぼすべての設計者欄に京都大学(KYOTO UNIVERSITY)と増田研究室(TOMOYA MASUDA & ASSOCIATES)が併せて記載されており、記載のある設計担当者は全員増田研究室に所属経験があった。このことから市内の一連の作品は、京都大学での研究室活動の一環として設計されていたことが伺える。またNo. 7北灘西幼稚園(1974年竣工)以前の図面では、「設計指導 京都大学

図1 徳島県鳴門市に現存する増田友也の建築作品 ()内は竣工年



All existing buildings designed by Tomoya Masuda in the City of Naruto on Tokushima Prefecture.

NAGAOKA Daiju

